

十小学校

《十小スタンダード及び全校で統一する取組》

◆はじめとおわりに あいさつしよう ◆必要なものだけ 机の上に ◆よい姿勢で 座ろう「ぐう ぴた ぴん」 ◆「はい」 立つ 「～です」
 ☆児童の実態に合った問いかけをする ☆教室前面を統一するなど、学習環境のユニバーサル化を図る ☆東京ベーシックドリルの活用
 《今年度、学年として、何事にも進んで挑戦し、やる気満々の児童を育てるために系統立てて取り組むこと》

- 学習のゴールイメージをもち、問題を発見し、解決の道筋を考える。
- 学習する過程で、自分の考えを表現し、解決の方法を修正できる。
- 学び合い、考えや学び方を広めたりふかめたりできる。

授業改善に向けた教科ごとの方策 第5学年

| 教科名 | 児童の実態 | 学年末までに期待される児童の姿 | 具体的な授業改善策(箇条書き) | 検証及び修正案 |
|-----|---|--|--|---------|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ・音読に対する関心が低く、一人読みに挑戦する児童が少ない。一斉音読の際、声を出す子と出さない子の差が大きい。 ・漢字の定着率がとても低い。 ・説明文において、原因と結果について結び付けて考え、説明することを苦手とする児童が多い。 ・読み取ったことから、自分の考えや感じたことを文章で表現することを苦手と感じている児童もいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・聞きやすい声の大きさや速度で自分の考えや意見を順序良く説明できるようになる。 ・段落要約や要旨をまとめる活動を通して、筆者の考えやその文章の要旨を読み取ることができるようになる。 ・交流を通して、読み取ったことや自分の考えを、叙述をもとにノートに書いたり発表したりすることができる。 ・既習した漢字が作文や日頃のノートに書けるようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で一人ずつ音読させた際に肯定的な評価を与えることで、児童の意欲を高めさせる。 ・ノートを交換する場面を多く取り入れ、自分の考えを広げる、深める時間を取り入れる。また、考えが書けていない児童のためにも、考えを知る時間を確保する。 ・自分の考えを書く、ノート共有する、再度自分の考えを書くというサイクルを行っていく。 ・漢字の小テスト、まとめテストを繰り返し取り組んでいく。 ・交流では、対面にせず、ノートを置いて、意見や感想などを付箋に残したり、Google クロームのジャムボードを活用したりすることで友達の考えを知り、考えを広げる機会をつくる。 | |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・海洋や大陸の名前、日本の周りの国について理解できていない児童が多い。また、方位、地図の見方など、基本的な知識が身に付いていない児童も多い。 ・写真や絵資料に対しては、気付いたことを伝えたい意欲のある児童が多いが、グラフや文章資料に対しては読み取る意欲が低い児童が多い。 ・学習問題を立て、予想して、学習計画を立てるといった一連の学習の流れは理解しているが、一人一人に定着していない。 ・まとめの段階で、学習問題に対する自分の考えを書くにあたり、毎時間調べてきたことを関連づけたり、総合したりすることが苦手な児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・海洋や大陸、日本の周りの国の名前、方位や地図の見方について、基礎的な知識が身に付いている。 ・グラフや文章資料から必要な情報を集め、読み取ることができるようになる。 ・学習問題に対して、自分の予想から学習計画を立て、調べ学習を進められるようになる。 ・学習問題に対して、毎時間調べてきたことを関連づけたり、総合したりしながら自分の考えをまとめられるようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な事項について小テストを行い、身に付いているか確認する。 ・資料の読み取り方について、どこが大事なのかを押さえていく。 ・ノート指導を充実させ、毎時間の学習の最後に、大事だった事柄をまとめさせるようにする。実物投影機を使用し、まとめ方や互いの考えを共有する場面を作る。 ・教科書でグラフ等の資料を活用する時には、担任が簡単に資料を提示せず、学習課題に沿って児童が資料を見付けられるように声掛けをしていく。 ・学習の仕方が定着するように、単元ごとに学習問題～学習計画までを丁寧に扱う。 | |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習に向かう意欲はあるが、発言力する児童は限られている。 ・四則計算の定着が低い。繰り下がりのある引き算やかけ算九九に苦勞する児童も多くなる。そのため、1学期に学習した、「単位量あたりの大きさ」や「小数の割り算」など割り算を使って課題を解決する単元では、相当苦勞している姿が見られ、定着も曖昧が見られた。 ・文章では、演算決定の根拠を明確にせずに立式に苦勞する児童が多数いる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・整数、小数の範囲で四則計算が正しくできる。 ・東京ベーシックドリル診断シートの③、④、⑥、⑦、⑧の計算問題を正確に解くことができる。 ・問題場面を正確にとらえ、正しく立式をすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・計算の手順を丁寧に一つ一つ確認していく。 ・授業ごとに簡単な四則計算を継続的に取り組んでいく。 ・問題→絵・図・式・数直線・グラフなど→計算→答え 普段(授業・宿題など)から、答えだけに注目するのではなく、答えにたどり着いた道筋を大切にできるように指導する。メモ書きを消さないように指導する。 ・顔を向かい合わせる交流ではなく、児童同士でノートを交換し、互いの考えを知り、自分の考えを深める機会を作っていく。また、ホワイトボードや書画機を利用し、全体交流でも考えを深めていく。 ・複雑な内容の時は、数字を簡単にすると、既習事項として捉えて、自分の考えを持てるようにする。 ・導入では、だれもがわかりやすく、疑問をもつことのできるものを扱い、主発問につなげる。 | |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> ・何を調べるための実験かを理解して、予想や実験計画を立てることが苦手な児童が多い。 ・実験結果や観察結果から、考察することに対して苦手意識をもっているように見られる。 ・授業を通して知識や技能を身に付けることはできているが、テストの発展問題で、知識を活用して答えることには課題がある。 ・実験器具の名称や使用順序などを理解できていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・条件を整理し、目的に合った実験計画を立てることができる。 ・実験結果から考察し、結論を導き出すことができる。 ・「課題、実験計画、結果、まとめ」までをノートにまとめることができる。 ・実験を通して学習した内容を、自分の言葉で説明したり活用したりすることができる。 ・実験に何かが必要で、どのように使用するか見通しを持てるようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が関心をもって予想したり実験計画を立てたりできるよう、事象提示の仕方を工夫する。 ・課題解決型の学習を多く取り入れ、同じ流れで学習を進めていくことで、ノートの書き方や学習のスタイルを定着させる。 ・それぞれの単元の終わりに、ノートを振り返ったり練習問題に取り組んだりする時間を確保する。 ・実験の際に、ペアで器具名の確認や班で実験の流れを繰り返し理解する場面を作る。班で一役責任をもち、実験に参加する機会をもつ。 ・実験方法、実験結果の予想など考えを共有する際は向き合っている交流は行わず、ノートを交換して横向きで説明するよう指導する。 ・導入で、動画を用いることで、児童から調べたいことを出させるようにする。 ・課題を確かめるためには、どのような実験をしたらよいか考えさせ、筋道を立てて、計画させる。 | |
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組もうとする意識の差がある。 ・「学び合う」という経験が乏しいため、自分たちの意見を言ったり聞き合ったりすることが難しい児童が多い。 ・学習カードに自分自身や友達とのかわりについて振り返ることが苦手な児童が多い。 ・体の柔軟性がない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・どの児童も主体的に運動に取り組むことができる。 ・自ら意見を出し、チームの特徴に応じた作戦をたてていくことができる。 ・ゆあてに合わせて活動を正しく振り返りを行うことができる。 ・8割の児童が「柔軟」において体力テストの全国平均値より高い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動が苦手な児童でも楽しめるように活動をスモールステップで進めていく。 ・児童同士を交流させ、伝え合い、励まし合う時間を設ける。交流させる際には何が話し合うポイントなのかを押さえておく。 ・学習カードを書く時間を確保し、振り返りの観点を明確に示す。 ・段階に合わせて、小グループで作戦を考えたり協力したりして活動する時間を計画的に取り入れていく。 ・準備運動や補助運動として、長座などのストレッチを取り入れる。 ・コロナ禍における状況の中、単元を入れ替え、児童同士の接触がないものから授業を行っていく。 ・児童同士の声掛けや作戦を立てる状況ではソーシャルディスタンスを保つように指導する。 ・エアータッチ、エアードンをする。 | |
| 総合 | <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンの操作やインターネットの活用において個人差が大きい。 ・伝えたい内容を焦点化するが苦手な子が多い。 ・自分の調べたい課題を見つけ、解決する方法を選択したり、調べた内容を分かりやすく工夫してまとめたりすることが苦手である子が多い。 ・丁寧にまとめることができない子がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は学習内容を変更しているため、現地に行き調べるということができないが、他教科とリンクさせ、経験したことや体験したことを関連付けてまとめて発表したり、身近な環境について考えたりすることができる。 ・調べた内容を目的に合わせて、まとめ方や発表の仕方を選択することができる。 ・集めた多くの情報を分類・整理し、必要に応じて活用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各自関心のある内容について調べられるよう、関連する図書を収集したり、インターネットで調べられるようにしたりして環境を整える。 ・経験したことや体験したことを想起させるなど導入を工夫し、個々が課題を設定しやすいようにする。 ・まとめ方(ポスター、リーフレット、新聞・パワーポイントなど)と発表(紙芝居、劇、クイズ、CMなど)の特性を理解させ、条件に合わせて選択できるようにする。 ・コロナ対策のため、発表は間隔を十分に開け、一対全体で行う。 ・児童同士の振り返りは、Google クロームのジャムボードやアドバイスカードを活用することで、対面した交流をさせる。 | |
| 外国語 | <ul style="list-style-type: none"> ・2年間の外国語学習の積み重ねがあるが、英語で話している内容について理解出来ない児童が多い。 ・英語を話すことに抵抗感をもつ児童が多い。 ・リズムに合わせて英語を発話することができる。 ・英語を使った活動に進んで取り組む児童が多い。 ・英語に対して、苦手意識を持っている児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界と日本の学校生活の共通点や相違点を通して、多様な考え方があることに気付くとともに、英語での表現の仕方に慣れ親しんでいる。 ・相手に配慮しながら、自分の考えも含めて伝えることができる。 ・英語に関心を持ち、前向きに活動に参加することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽やリズムを取り入れて、体で英語を覚えられるようにする。 ・外国の文化を理解するとともに、日本の文化について深く理解し、それを伝えようとする態度を育てる。 ・イラストなど視覚的資料を充実させて、英語での表現を身に付けさせる。 ・英語を使う必要性のある場面を設定し、1時間の授業の中でたくさん英語を使わせるようにする。 ・感染予防のため、グループでの交流を減らし全体で発音する。 | |

| 教科名 | 児童の実態 | 学年末までに期待される児童の姿 | 具体的な授業改善策(箇条書き) | 検証及び修正案 |
|----------|---|--|--|---------|
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> 器楽学習に興味をもって取り組む児童が多い。 一つの活動を終えるとすぐに喋りだす傾向が目立つ。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちで曲想に合った雰囲気を作り出し、演奏できる。 音のマナーを守り、お互いに気持ちよく授業を受けている。 | <ul style="list-style-type: none"> 平易な曲を用い、横並びのペア或いは小グループで音を合わせる機会を設ける。 目で見てわかる合図、できたことが確認できる印、などを活用する。 コロナ対策のため、授業前後に手の消毒を行い、向かい合っの活動はしない。 | |
| 図画 工作 | <ul style="list-style-type: none"> 造形活動への意欲は高く、材料の使い方を考えたり工夫したりしながら取り組むことができる。 用具の扱いには個人差があり、製作において生かし切れていない児童が見られる。 一斉指導では指示が伝わらず、学習のめあてや用具の安全指導などを中心に、個別の支援が必要な児童が各クラスにいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 材料だけでなく、絵の具や電動糸鋸などの用具も十分に活用し、前学年までの経験も生かしながら活動に取り組むことができる。 学習のめあてを理解し、用具を安全に使用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 活動の中で用具を扱う時間を十分に設け、各児童に合わせて個別の指導や支援を行う。 板書や電子黒板を活用し、活動のめあてや流れ、気を付ける点などを視覚的に捉えられるようにする。 感染予防のため、机に衝立を設置し、授業前後の手洗いを徹底させる。 | |
| 家庭 | <ul style="list-style-type: none"> 調理や裁縫への意欲は高く、積極的に取り組む児童が多い。 基礎的な手縫いの技術を身に付けるまでの時間や技能の個人差が大きい。 調理や製作に必要な用具の安全な取り扱いについて支援が必要な児童が各クラス数名ずつみられる。 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な手縫い、ミシンの技能を身に付けて目的に応じた縫い方で製作したり、それを活用したりすることを楽しむ。 調理や製作に必要な用具を安全に取り扱うことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 教師による例示、映像資料の活用、個別指導やペアでの教え合いなど様々な方法で技能の習得ができるような授業展開を行う。 作業中にできる限り児童が対面しないように座席を交互にする。 自身や他者の心や体を大切にするための食生活や栄養素、生活を支える物やお金の大切さにも気付くことができるように指導する。また、個別指導は担任と連携を図っていく。 調理の仕方や手順などを学習させ、トライカードを活用し家庭で調理を行うようにする。(調理実習を行うかどうかは今後の状況を見ながら判断する。) | |